

第4回ボランティア研修交流会

一周年を記念して

北崎さんボランティアを激励

十一月九日十一時から北九州市国際会議場レストラン、ラ・プラーージュで第4回ボランティア研修交流会を開催しました。今回は、「さわやか」設立一周年も同時に記念して、今までとは少し変わった研修交流会になりました。

来賓には、全腎協小林常務理事、済生会八幡総合病院合屋院長、市障害福祉課山田係長、市会議員戸町武弘氏婦人が列席され、各氏から祝辞をいただきました。

佐賀県からは、佐賀県腎臓病患者連絡協議会の富崎会長以下5名が「さわやか」の実情調査に来られ、研修交流会にも参加されました。

研修交流会は坂倉副会長の司会ではじまり、まず、江頭会長が、一年間継続できたこ

全腎協から 実情調査へ

全国マニュアル作りのため

十一月十日から十二日までの三日間、全腎協から、「さわやか」の実情調査がありました。全腎協事務局から、通院介護事業担当の西井みどりさんが派遣され、「さわやか」の実情をつぶさに見学しました。

車の中では、ボランティアさんと利用者の方、双方から忌憚のない意見を聞くことができた様です。事務局では、江頭会長、山田コーディネーターから、「さわやか」設立の歴史的経緯及び教訓・課題コーディネートの問題点など多岐にわたって説明がされました。

「さわやか」の経験を全国に広め、通院介護事業が更に発展するよう、全国に通用するマニュアルを作る任務で西井さんは派遣されてきました。「さわやか」が全国で初名乗りをあげましたが、現在、兵庫県阪神支部で、通院介護事業が始められました。また佐賀県も準備を始めています。全国的にも、各地で通院介護事業を作る動きが出ています。

西井さんは、三日間でみっちり「さわやか」の実情を把握され、確信をもって、東京へ帰られました。素晴らしいマニュアルができてくれることを期待します。

とは、一重に、ボランティアの皆様のお蔭ですと挨拶をされました。来賓の皆様からは、祝辞と励ましの言葉をいただきました。小林常務理事からは、この北九州の通院介護事業を全国に広げてゆく決意も披露されました。

竹内副会長（福岡難病連北九州市支部長）が乾杯の音頭をとり、その後、バイキング料理を食べながら、交流会に入りました。交流会の中ではボランティアの皆さんからの実情報告がされました。皆さ

小倉事業所

正月開設予定

北九州市腎友会総会で「さわやか」の二分劃の方針を採択承認しました。その後、直ちに二分劃の作業にとりかかりました。事務所は透析医会を通して、小倉第一病院内に設置することが決定しています。コーディネーターも、阿部クリニックの梶原待子さんに決定しています。

市障害福祉課からも、小規模作業所の承認も得ています。現在、NTTに電話工事を

依頼している所です。その他銀行や郵便局の口座作りや、小倉第一病院の事務所の整備など、実務面での仕事が残されています。

今後の予定としては、12月中旬から事務所の整備をして1月から、コーディネーターの仕事に入る予定です。尚、12月中旬には、小倉事業所の開設式を行う予定にしています。

かわらず、研修交流会に参加していただきました。自分の病気の克服のため、ボランティアを志願されただけあって他の人が酒を勧めても「私はアルコール依存症だから、酒は駄目です」ときっぱり断っ

ていました。自分がアルコール依存症とはっきり他人に言うことは、勇気のいることです。Tさんの勇気に、側で見ていた人が感心していました。Tさんは、ボランティアが生甲斐と、35分もかかる送迎を朝晩しておられます。Tさん頑張ってください！

ボランティア研修交流会の中で、利用者代表として、北崎さんが参加されました。参加困難な中、送迎の車で参加していただきました。北崎さんのスピーチは、ボランティアさんが明日へのエネルギーを蓄えるのに充分なものでした。そのスピーチの中で、「コーディネーターの山田さんは素晴らしい人です。ミスさわやかです」と。山田さんにとっては、最高の賛辞。筆者は一瞬ハッと驚きました。ミスとは違うのではないかと。早速帰って辞書を引くと、「ミス」は代表的な美人として選ばれた、未婚の女性。第4回さわやか研修会以後は普通家庭の主婦のことを言うようになった、と書いてありました。さすが北崎さんは、先見の明があると感心しました。これからも、この様な名言が出されることを期待します

